

中野 寛之 議員

(一問一答方式)



- ①大洲高校の魅力化応援
- ②鹿野川ダムの貯水率表示
- ③観光地での撮影スポット作成
- ④粗大ごみ減量の取組
- ⑤放課後児童クラブにおける昼食の提供
- ⑥臥龍山荘の藤雲橋復元

大洲高校の魅力化応援について

問 先日開催された大洲高校の魅力化応援に関する懇談会では、高校から小・中学校との交流促進や、授業や部活動などでの大洲高校と大洲農業高校の生徒の移動への支援など4つの要望が出されたが、これらの実現のためには市の支援が不可欠であると考えられるがどうか。

答 大洲高校からの要望事項として、①地域との交流の中で小・中学校との交流を図りたい、②中学校の生徒や保護者からの意見を高校運営に生かすようにしていきたい、③部活動の地域移行について、土曜日、日曜日の活動に高校生を参加させていただきたいとありました。以上3点について、小・中学校と高校が交流を深めることや高校入学前の生徒や保護者との意見交換の場があることは双方にとって大変重要であると認識しています。今後、大洲高校から具体的な要望内容が届きましたら、市や教育委員会及び小・中学校等において可能な範囲での協力を行っていききたいと考えています。

また、4点目の大洲高校と大洲農業高校の施設間における生徒の移動への協力に対する要望は、現在、愛媛県教育委員会では、農業関係の授業・実習について、学年ごとに曜日で振り分けて大洲農業高校の施設でまとめて受講できるよう調整されるとともに、学校間のバス運行など移動時間のロスがないように工夫するとの考えを示していますので、統合後の校舎対応状況を確認しながら市の対応を考えていきます。

粗大ごみ減量の取組について

問 ごみの減量化、リデュース、リユースは行政の

大きな課題の1つであり、他自治体ではスマートフォンのフリマアプリを活用した資源の有効活用とごみを減らす活動を行っている事例もある。本市でも様々な方法を調査研究することが必要と思うがどうか。

答 粗大ごみを処分する場合のフリマアプリの活用は、市民の皆様にも経済的メリットが見込まれ、資源の再利用やごみの減量化においても有効な手段であると認識しています。スマホ教室の開催も前向きに検討を進めるほか、市内のリサイクルショップを市のホームページで紹介するなど、粗大ごみの処理に対するリユース意識が広く市民に浸透していくよう工夫していきます。

臥龍山荘の藤雲橋復元について

問 かつて臥龍山荘と蓬莱山にかけて存在した藤雲橋の復元は、大洲を代表する臥龍山荘の魅力と併せ、新たな見どころとしての観光資源となるほか、偉大な文化財を後世に伝え残していくためにも意義あることと思うがどうか。

答 藤雲橋は、臥龍山荘の国の名勝指定を目指して平成29年度から実施した名勝調査事業で、実在した橋であったことが明らかになっています。さらに、人が渡れるような実用的な橋ではなく、2本のワイヤーに藤を這わせた、非常に珍しい飾りの橋だったことも明らかになっており、臥龍山荘に強いこだわりと美意識を持って建築した河内寅次郎らしい独創的な橋であると評価されています。

また、大洲市教育委員会では、令和3年10月に臥龍山荘庭園が国の名勝に指定されたことを機に、令和4年度から同庭園を適切に保存、活用していくための臥龍山荘庭園保存活用計画の策定事業に取り組んでいます。計画策定に当たっては、有識者からなる策定委員会を設置して、指導、助言をいただきながら今年度末の完成を目指しています。この保存活用計画では、河内寅次郎が臥龍山荘に込めた思いを汲みながら、完成当時の臥龍山荘の復元を目指すことも整備方針の1つに位置づけ、中・長期計画に盛り込んでいく予定としており、藤雲橋の復元が可能かどうかは、策定委員会の意見を伺いながら調査研究を進めていきます。